

古今倭歌集卷第一

春歌上

かのこはほくほくと

あらはしのむら

かのこはほくほくと

あらはしのむら

かのこはほくほくと

古今倭歌集卷第一

春歌上

ふるどしにはるたちける日よめる  
ありはらのもとかた  
としのうちにはるはきにけりひと  
ゝせをこぞとやいはむことしとやいはむ

古今倭歌集卷第五

秋歌下

これさだのみこのいへのうたあはせ  
あよゆ

そもやのあそば

そくそくにあよゆあくせしよくされお  
りうわあくせしよくしも

古今倭歌集卷第五

秋歌下

これさだのみこのいへのうたあはせ  
によめる

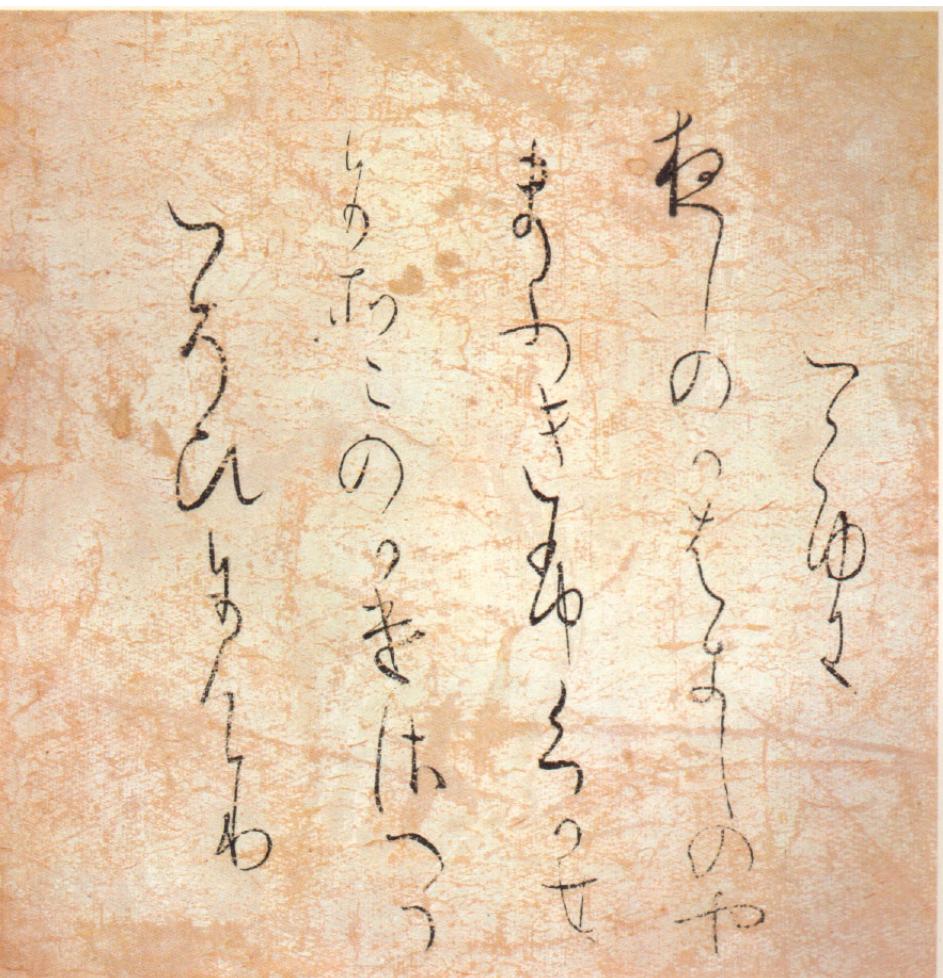
ふむやのあさやす  
ふくからにあきのくさきのしをるれば  
むべやまかぜをあらしてふらむ



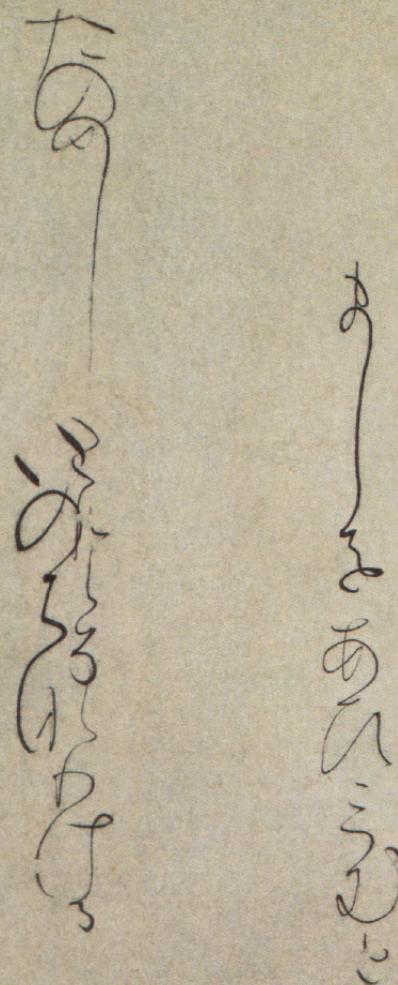
のやまれうりたよい(も、うりよ)

よしはむりやけむ  
わまくわすく  
ゆのをいとやまち  
あらわせしのゆに  
のやまれうりたよい(も、うりよ)

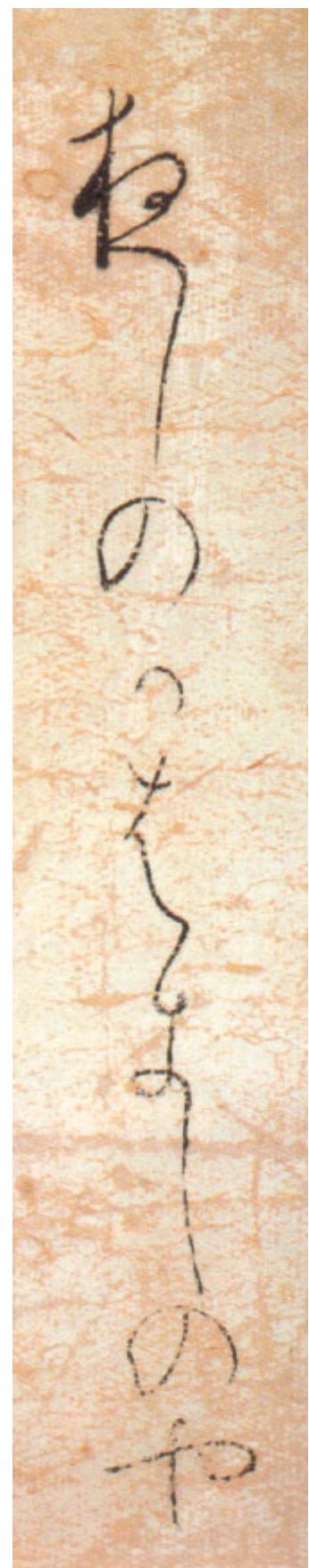
よみびとしらす  
よのなかはむかしよりやはうかりけむ  
わがみひとつのためになれるか  
よのなかをいとふやまちのくさきとや  
あなうのはなのいろにいでにけむ  
みよしのゝやまのかなたにいへもがな  
よのうきときのかくれがにせむ

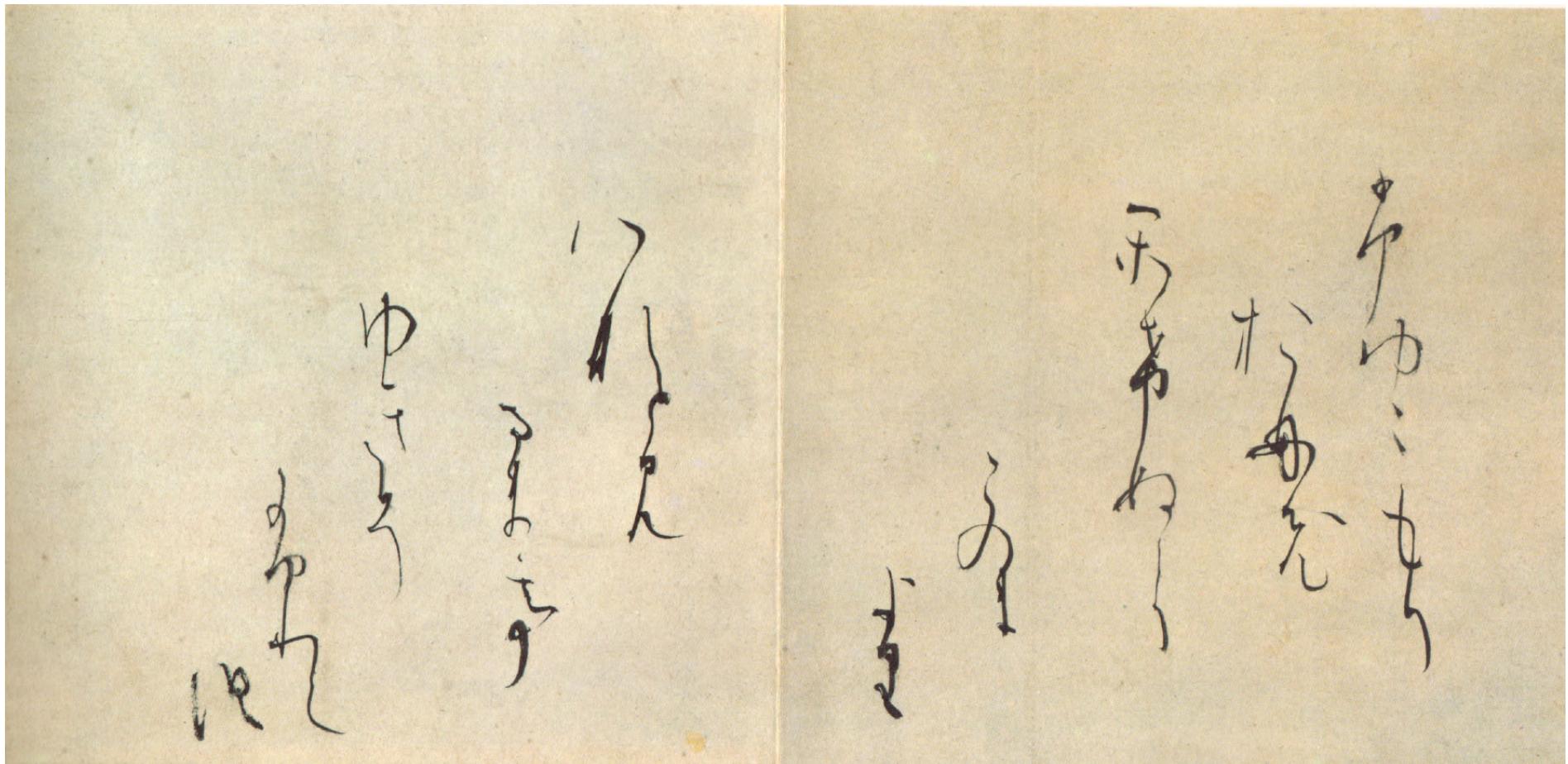


図版5 升色紙 伝藤原行成

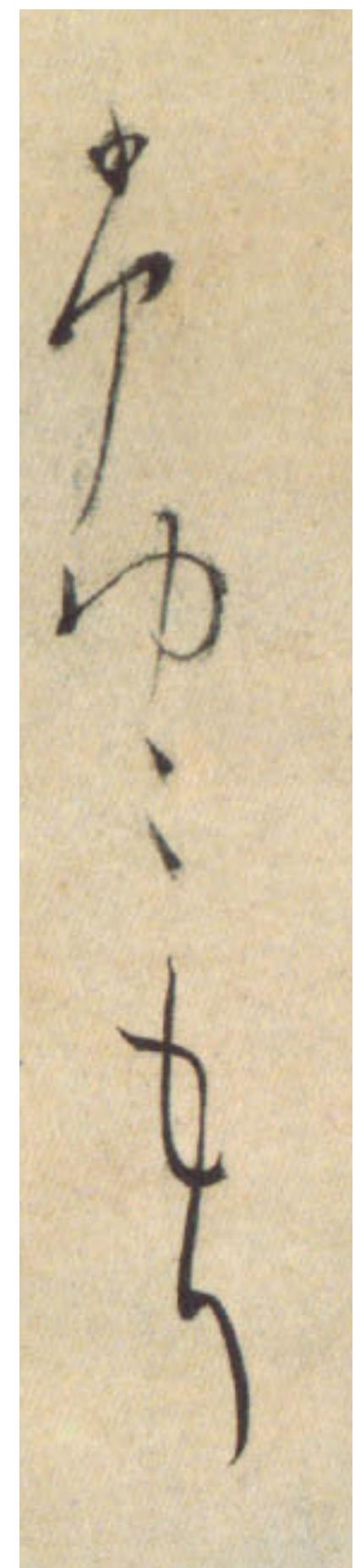


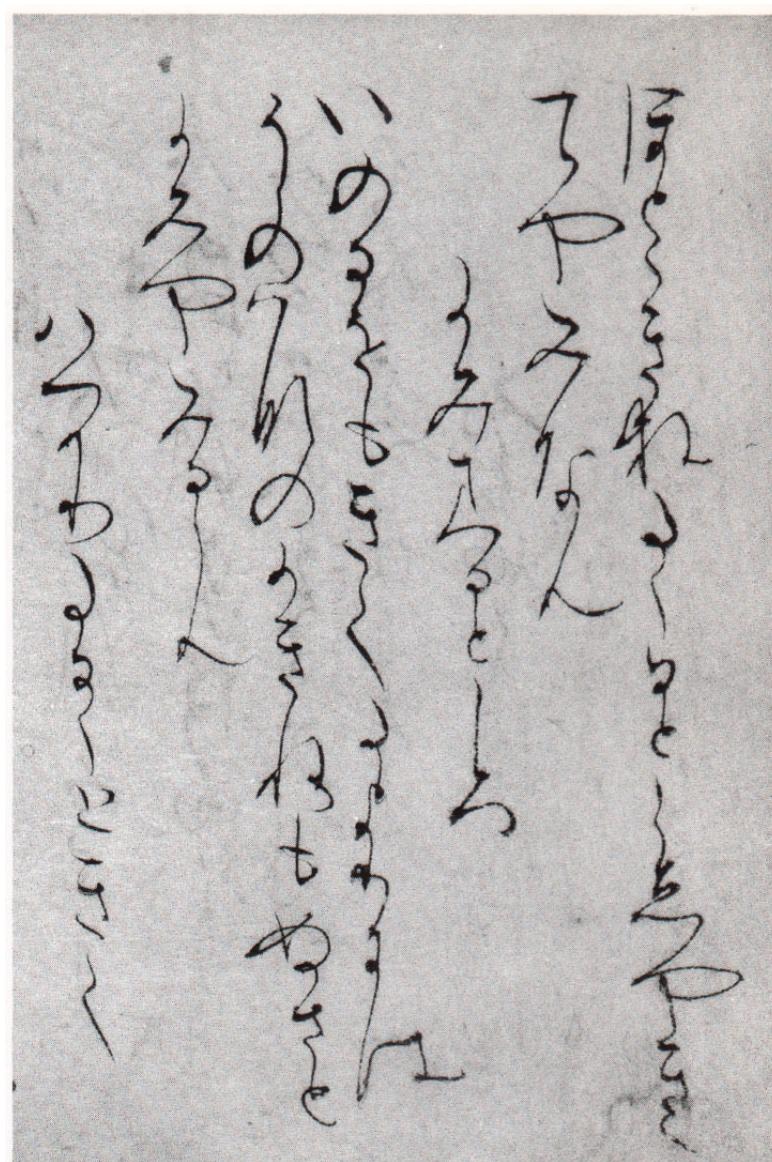
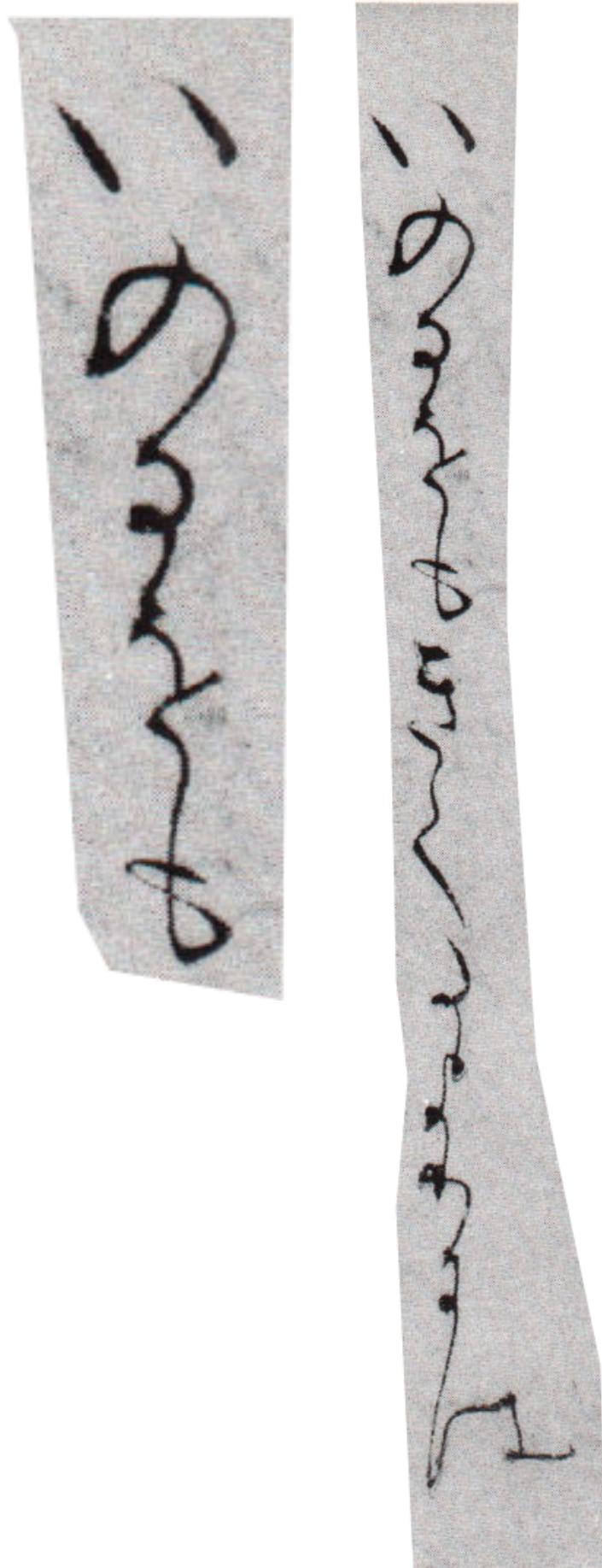
いまはゝやこひしな  
ましをあひみむと  
たのめしことぞ  
いのちなりける





ふりし ゆきぞ るまで はれとみ より このま かけぬを おもひ ふゆごもり





ほとゝぎすたゞひといゑやき  
てやみなん  
かみまつるといふ  
いのるをもきくたよりには  
うのはなかきねもぬさと  
かみやみるらん  
はつかりたびゞときへ

王家文集 花月集

花  
三十六首

卷之三

かくのまくらのまくら  
かくのまくらのまくら

The image displays three vertical columns of Chinese calligraphy. The top column shows the character '水' (Water) in three distinct styles: cursive (草书), seal (篆书), and standard (楷书). The middle column is a vertical continuation of the cursive '水' character, showing its fluid, flowing strokes. The bottom column is a vertical continuation of the standard '水' character, showing its more structured and formal strokes.

山家心中集 花月集ともいふべし

花三十六首

にとなくはるになりゆ

く日より心にかかるみよ

さむみはなさべべくもな

まりかねてもたづねきにける

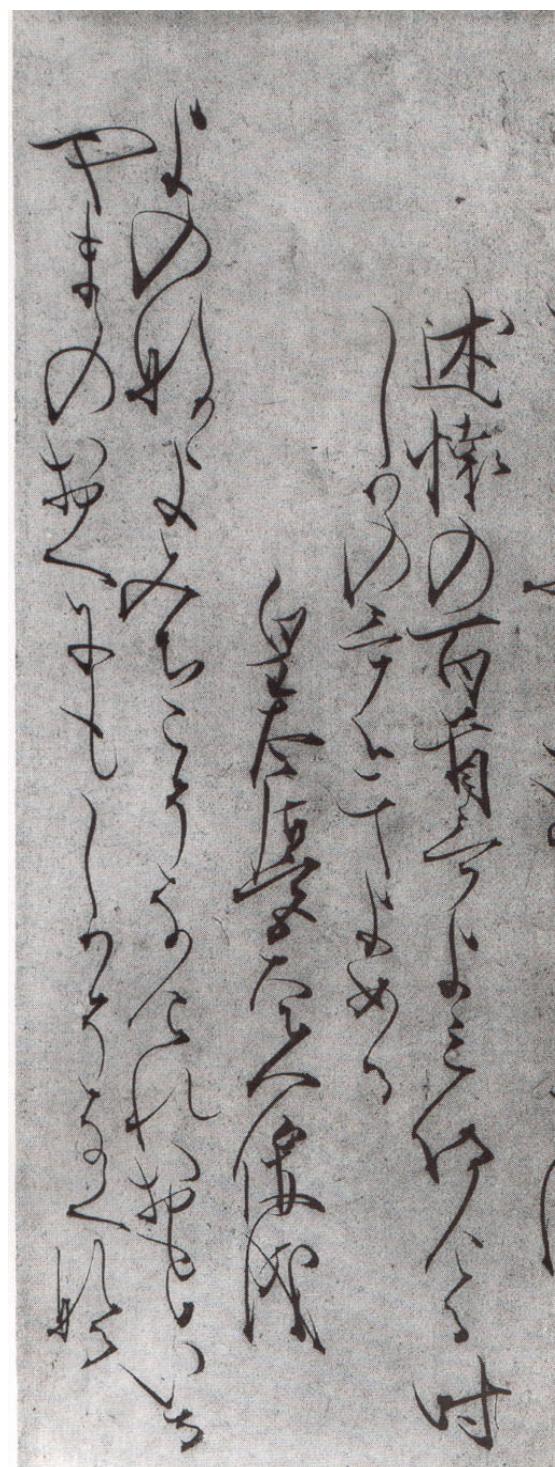
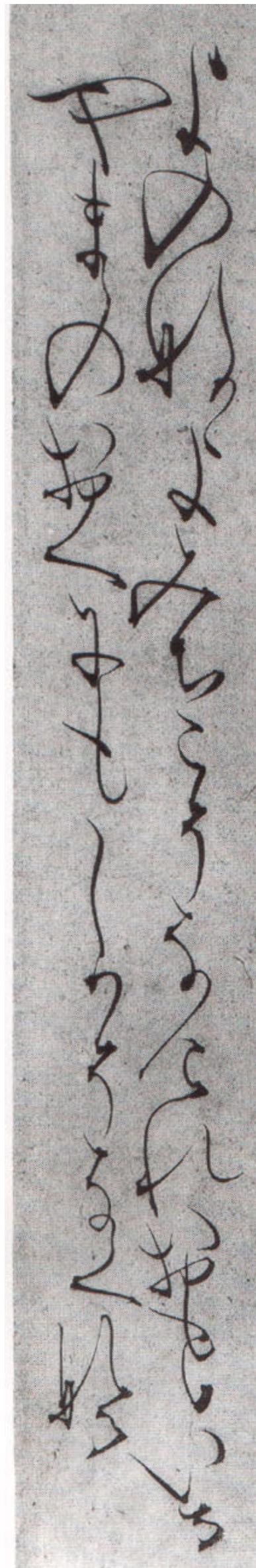
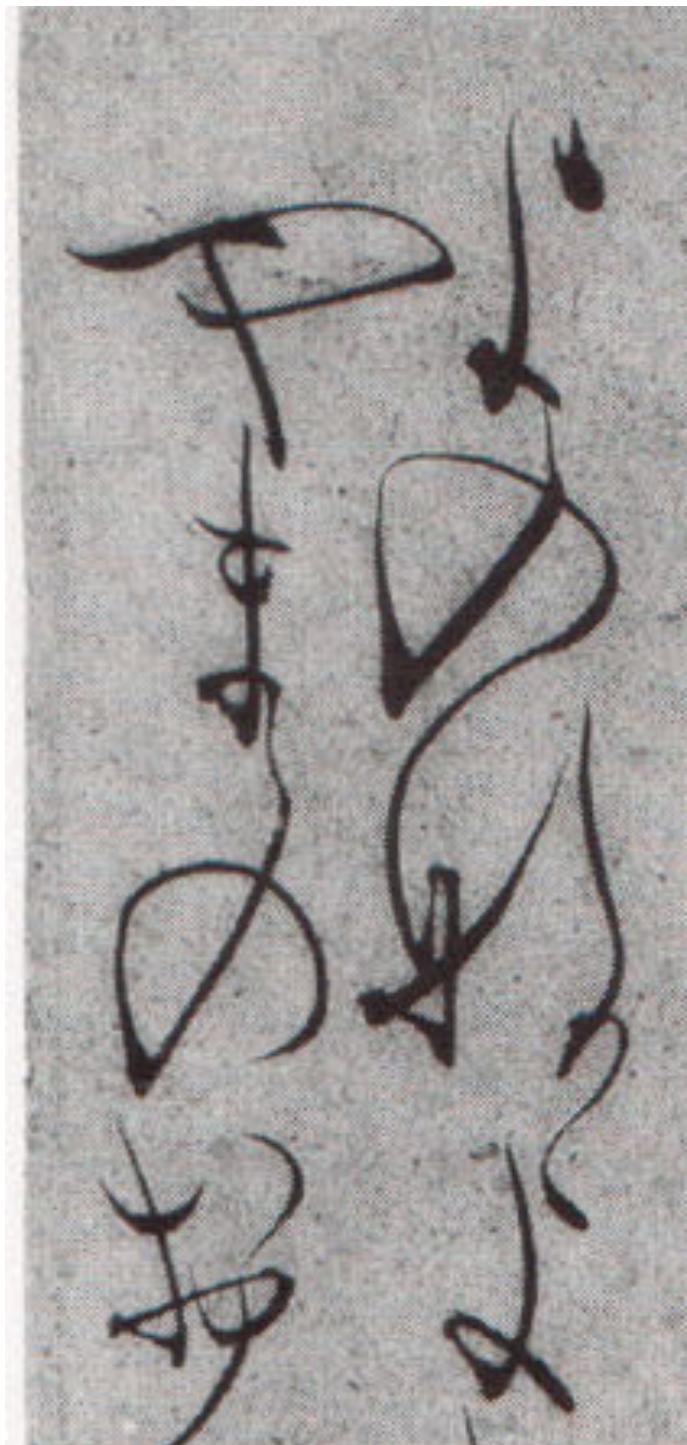
しの山人に心をつけがほに

なまつみねこかゝるしあく

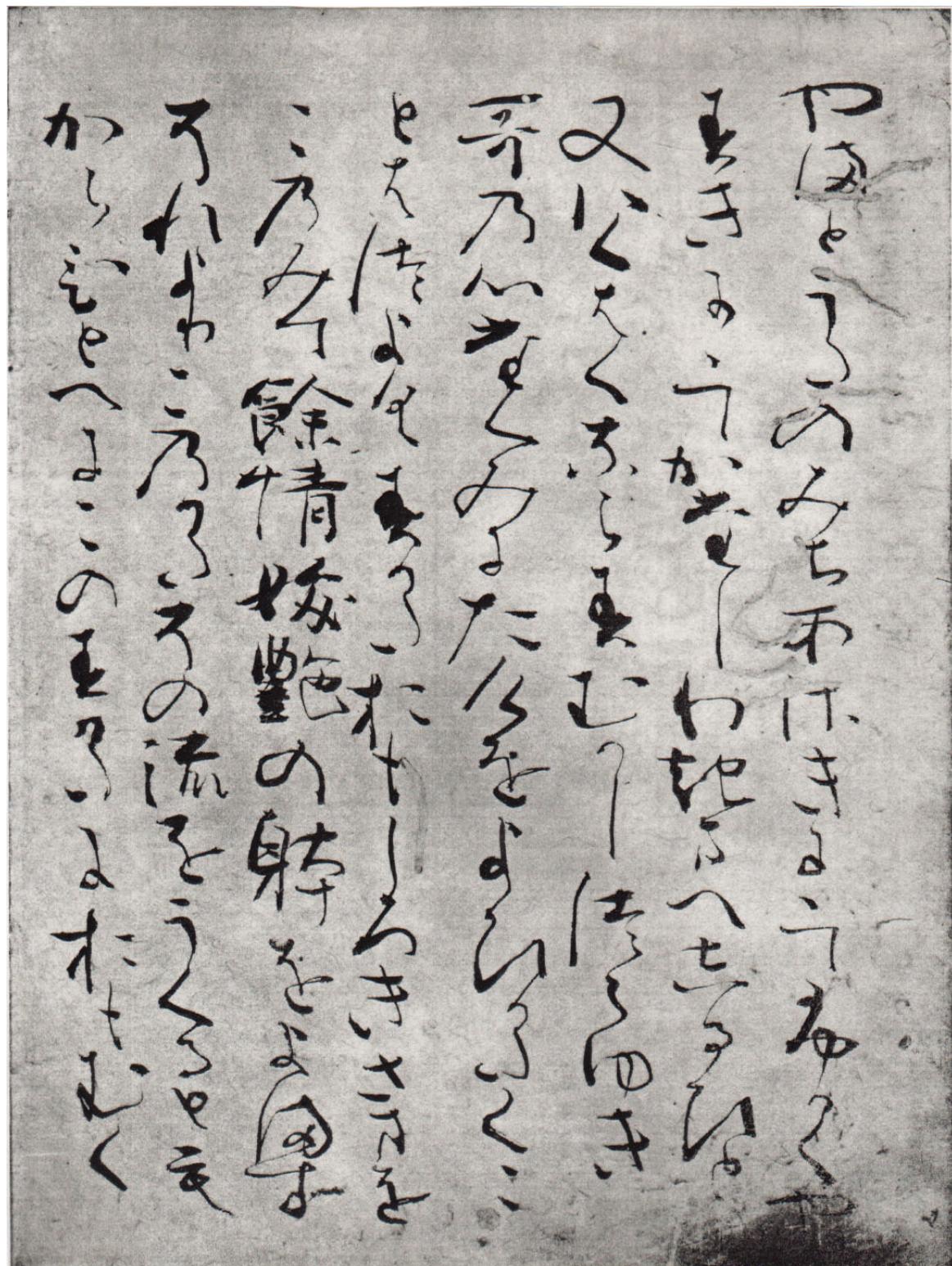
かぬまのはなこは／ものまが

の三事のみ之三

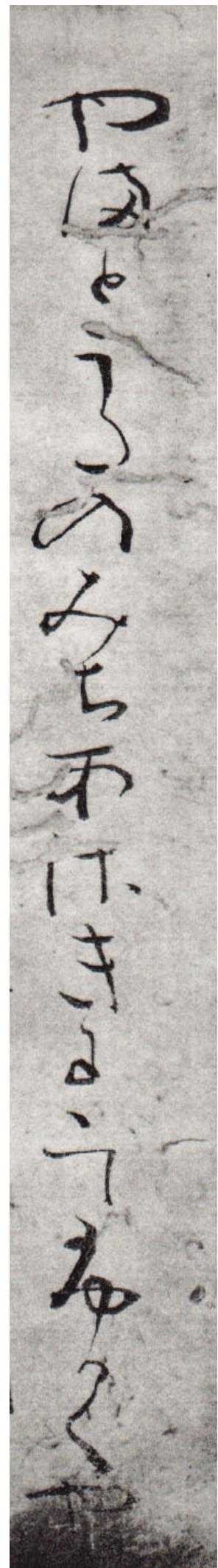
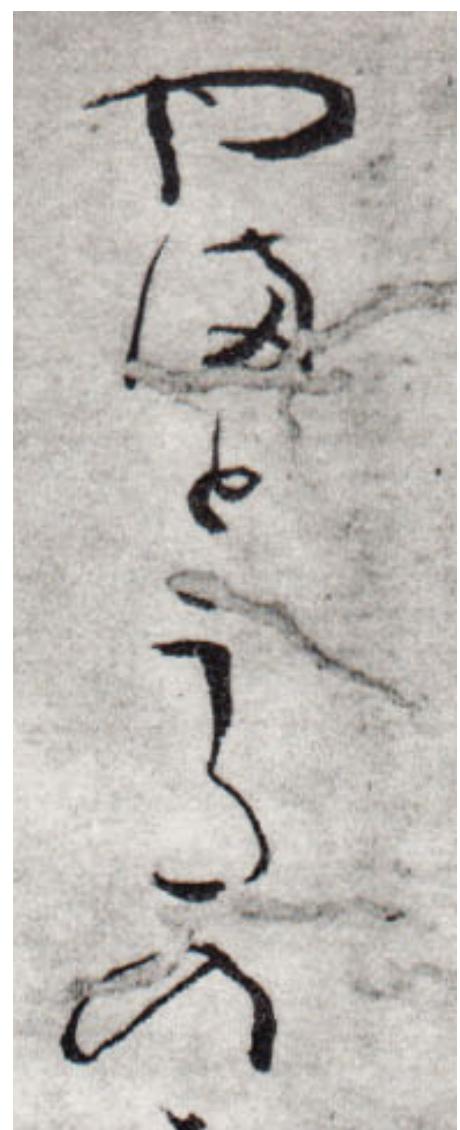
書道 もろもろ塾 資料 7

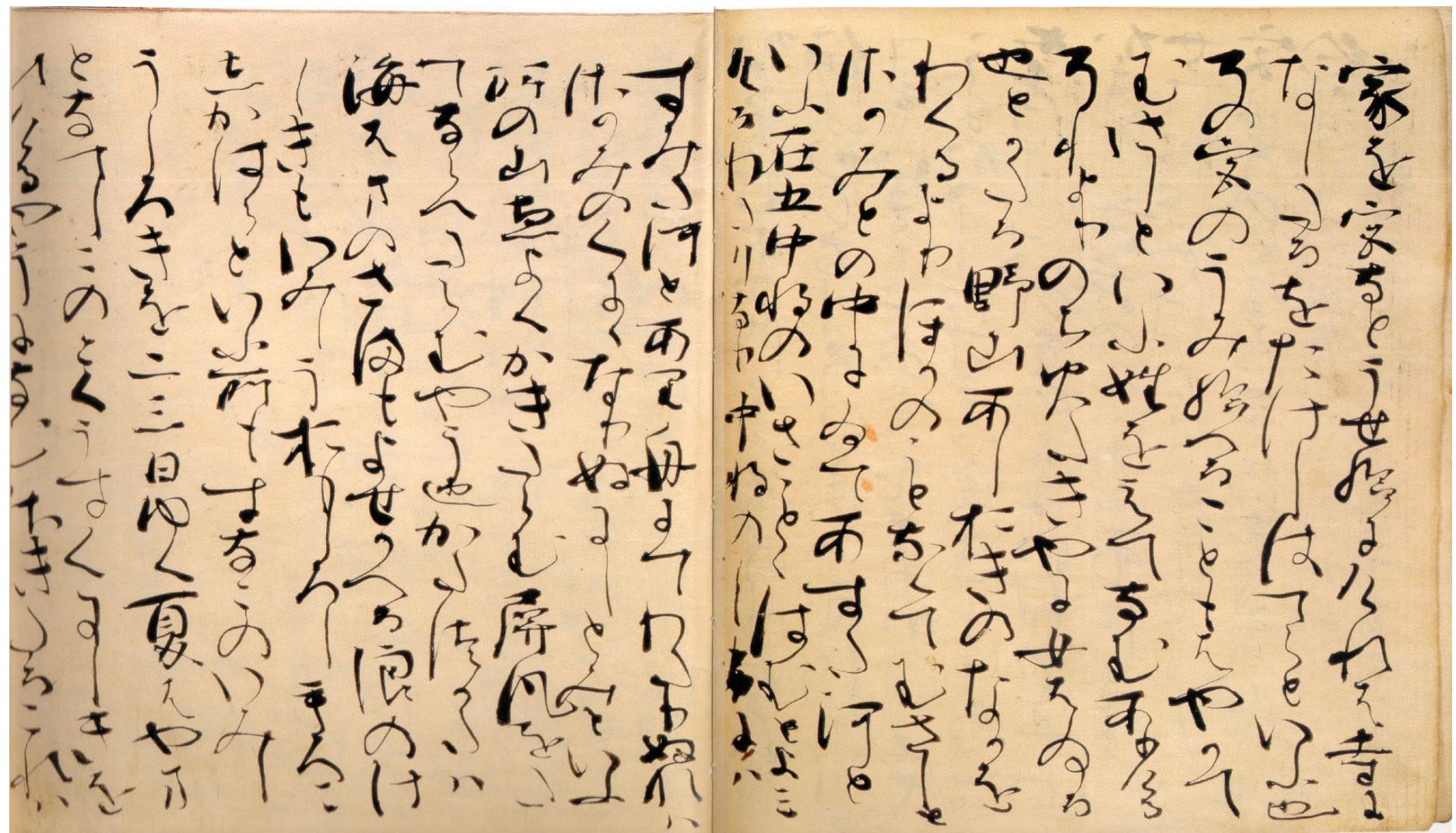


述懐の百首哥よみ侍りける時  
しかの哥とてよめる  
皇太后宮大夫俊成  
よのなかよみちこそなけれおもひいる  
やまのおくにもしかぞなくなる

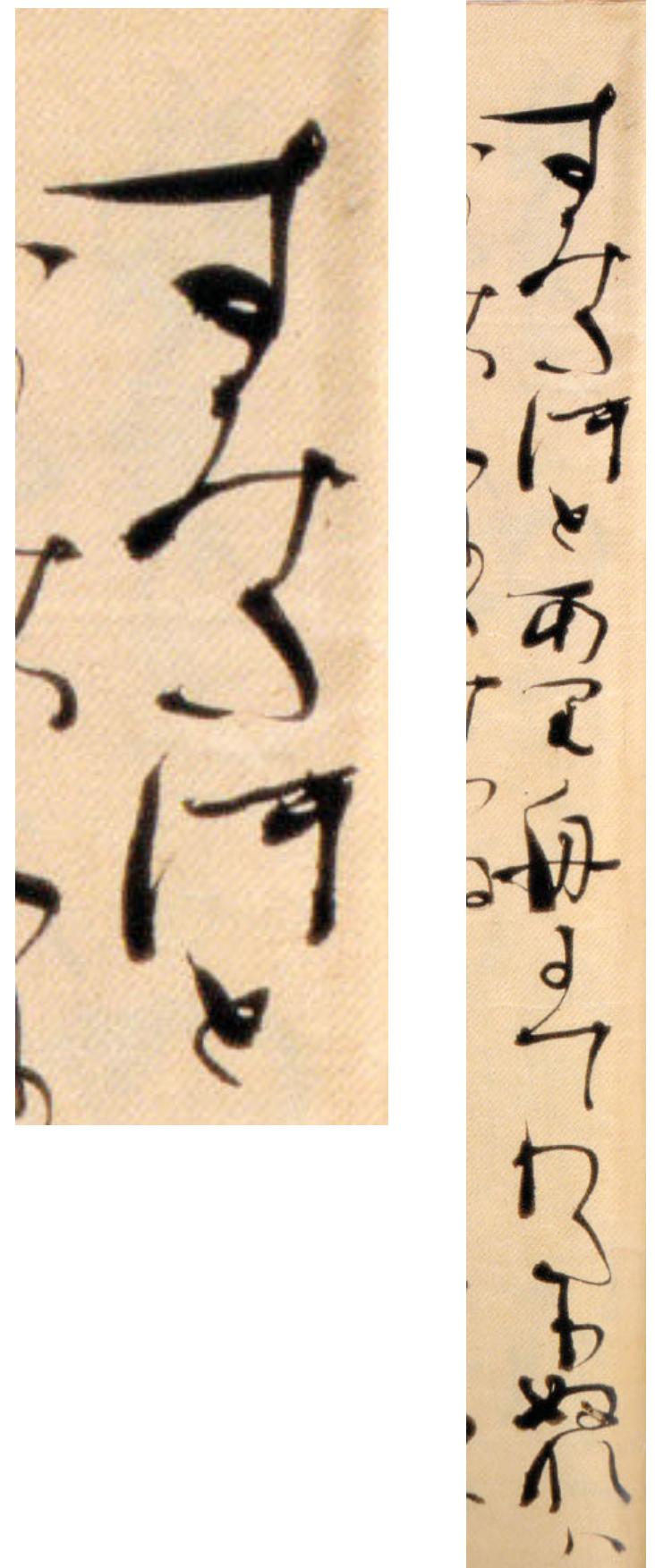


やまどうたのみぢあさきにゝてふかく  
すきにゝてかたし。わきまへしるひと、  
又いくばくならず。むかし、つらゆき、  
歌の心のたくみに、たけをよびがたく、こ  
とばつよく、すがたおもしろきさまを  
このみて、餘情妖艶の躰をよまず。  
それよりこのかた、その流をうくるとも  
がら、ひとへにこのすがたにおもむく。

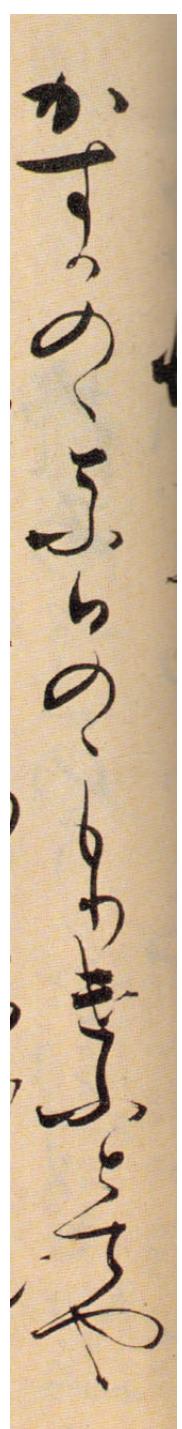
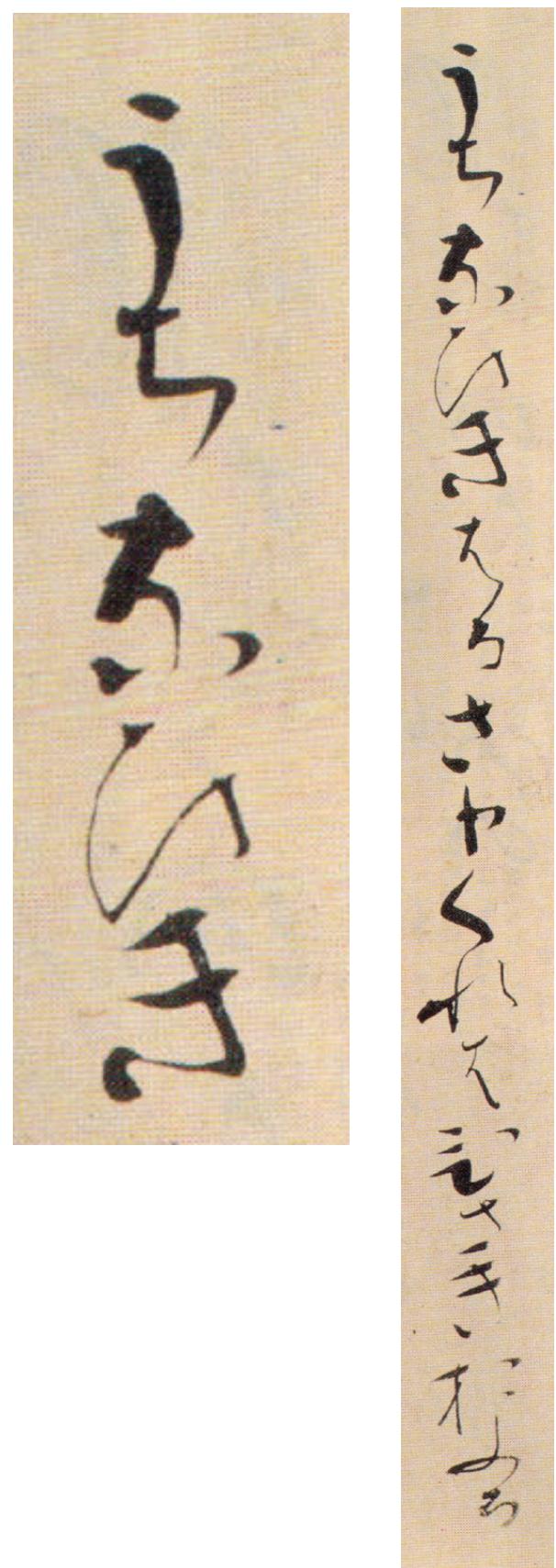
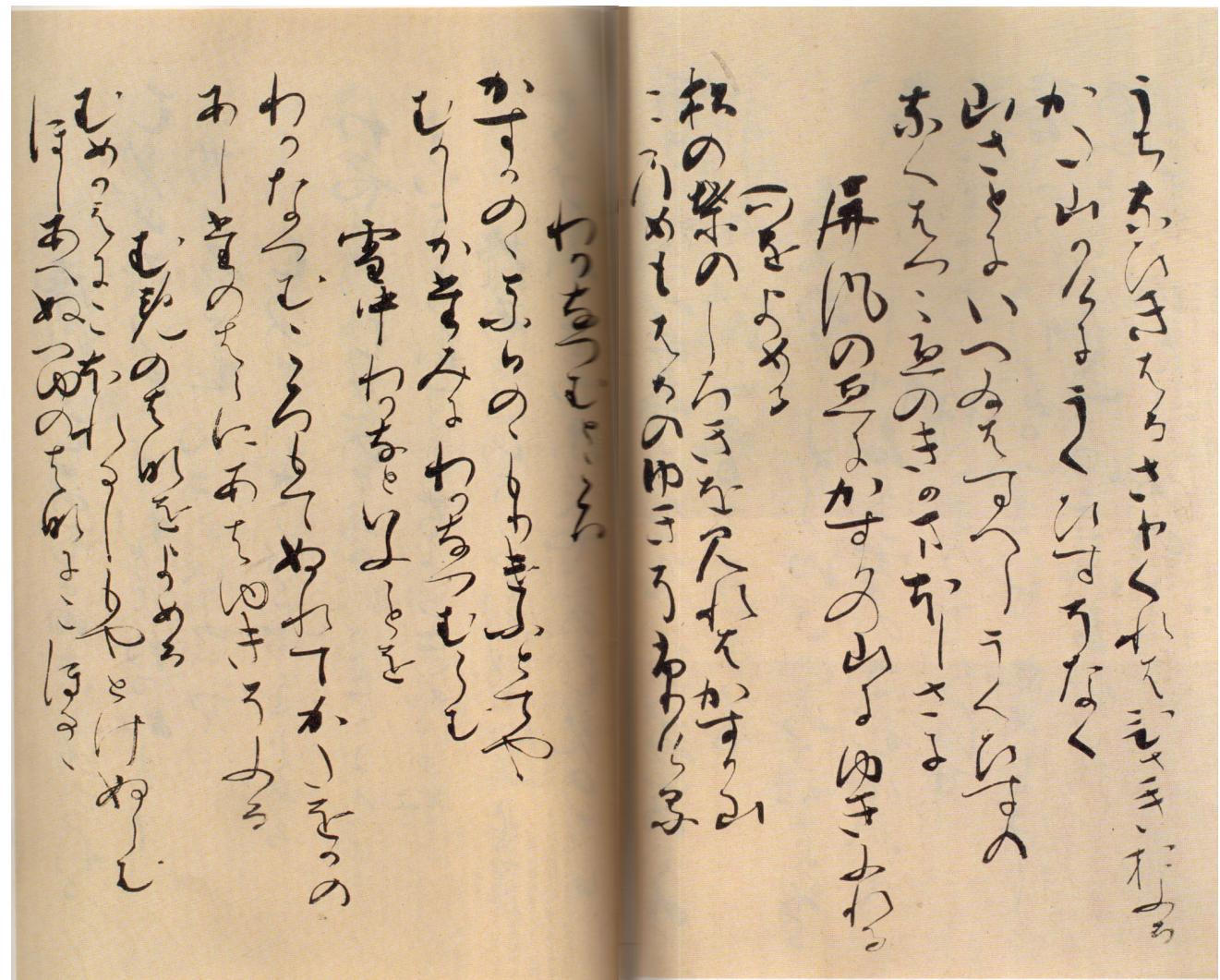




すみだ河とあり、舟にてわたりぬれば、  
さがみのくにとなりぬ。にしどみといふ  
所の山、ゑよくかきたらむ屏風をた  
てならべたらむやう也。かたつかたは



うつかなひきはるよりくればひさきおふる



かすかのゝとふひのゝもりけふとてや